

令和元年10月21日付【日本水道新聞】

関西支部 技術講座 法改正を軸に講演

<異業種との結節点に>

異業種との結節点に

水コン協関西 技術講座
法改正を軸に講演

全国上下水道コンサル
タント協会関西支部（支
部長）北秀文三水コンサ
ルタント相談役は3日、
大阪市内で技術講座を開
き、「改正水道法と水道



浦山主幹



石飛専務

基盤強化への取組み」と
題して給水工事技術振興
財団の石飛博之専務理事
が講演した。また、奈良
県水道局の浦山博幸副局
長が水道一体化推進担当主幹
として、異業種との結節点に

介した。会員ら約100
人が参加した。
石飛専務理事は、水コ
ンサルタントの役割につ
いて「急激な人口減少社
会を迎える中、適切な資
産管理を行っていくため
のダウンサイジングの技
術がまだまだ不足してい
る」との見方を示し、技
術力の発展に期待を寄せ
た。一方で、企業として
残業時間の削減や職務環
境の改善といった働き方
改革に取り組む必要があ
ることを指摘。「避けて
は通れない広域化や官民
連携において、異業種と
の結節点になるのがコン

サル。業界のブレーンと
して、基盤強化を末端ま
で行き渡らせてほしい」と
結んだ。
浦山氏は、奈良県内の
広域連携に関する検討に
ついて「平成23年に県域
水道ビジョンを策定した
頃から、県営水道と市町
村水道を『県域水道』と
して一体的に捉える考え
方が生まれてきた」と説
明。用水供給料金を引き
下げた際には、各受水市
町村に長期の経営シミュ
レーションを示し、県水
への転換を促進した。現
在は県域水道一体化に向
けた検討会内に関係事業

体で構成するWGを設置
し、主体的な検討・協議
に参加できる体制を構築
している。今後は簡易水
道エリアにおける広域的
な受け皿組織の設置を官
民連携で検討していくと
いう。
冒頭であいさつした北
支部長は、改正水道法の
施行や事業体が抱える膨
大なストックに触れ、
「コンサルの役割は今後
ますます重大になってく
る」などと話した。